

越中一宮

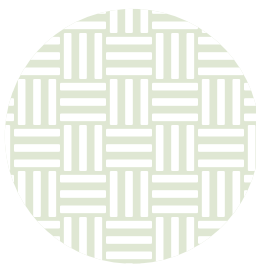
<https://www.takase.or.jp>



収穫のあるよろこび。

身近すぎて忘れてしまいがちな大切なもの。
おいしいおむすびも、つくりてと大国さまの
“結び”の力の結晶です。

撮影 南部スタジオ



十月・十一月の祭事

月次祭（毎月一日・十三日／一月は十三日のみ）
村祭り（十月六日）

神嘗奉祝祭（十月十七日）

明治節祭（十一月三日）

神明宮例祭（十一月十三日）

七五三祝祭（十一月十五日）

新嘗祭（十一月二十三日）



「命の大切さ」

宮司 藤井 秀嗣

現在もウクライナやイスラエルの戦争が続いており、連日、死傷者の数が報道されている。いつまで続くのか。歴史に学べば戦争の悲惨さがわかるはずなのに、どうして愚行を繰り返すのだろうか。

かく言う私たちも毎日の報道に慣れてしまい、気に留めなくなってきたのではないだろうか。遠く離れた国のこと、関係ないと思っていないか。かの国の老人や子供、何の罪もない人たちの大切な命が失われているのに、慣れとは恐ろしい。

平和といわれている日本。今年の元旦に能登半島地震が発生して多くの方が亡くなった。梅雨や台風の時期に線状降水帯が

発生、大雨による土砂崩れや洪水で多くの死亡が報道されている。さらに熱中症の患者が増え、死者も増えている。これまでの異常気象を超える現象が起きていて全国どこにおいても自然災害に遭遇する可能性がある。今やわが国には安全安心な場所はないのかもしれない。

戦争で失われる命も災害で失われる命も同じ大切な命。その命がたくさん失われている今日の様子は世界的危機である。

当神社の所在地「南砺市」の人口は約四万六千人。今年八月末までの出生数は約百六十人という。ここ数年の年間出生数の平均値は二百人ほどであり、とても人口増にはなっていない。

ひと度、大災害がおければ、さらなる人口減となる。

赤ちゃんは神様からの「授かりもの」というが、私たちはそれぞれ神様から大切な「命」をいただいている。今、その大切なものがたくさん失われている。命を繋ぎなければ私たちの未来は危うくなってしまう。

「物で栄えて心で滅ぶ」といわれて久しいが、命あるのがあたりまえで、命あることに感謝する意識が薄らいでいるのではないか。自分の命はもとより、自分以外の命の大切さを見つめ直す必要はないだろうか。

御祭神「大国主命」は「むすび」の神様。「生す」「産す」と書く。新たな命を生み、育てる御神徳が崇められている。それぞれいただいた命に感謝し、さらなるお導きを祈りたい。

高瀬稻荷社例祭

仲夏ちゅうかの境内にうるおいをもたらす梅雨らしい空模様となった六月三十日、末社「高瀬稻荷社」の例祭並びに商売繁盛祈願祭を齎行しました。

一般的に朱い鳥居で知られる稻荷神社は、商売繁盛・五穀豊穡の社として崇敬を集めており、高瀬稻荷社でもこの日、目まぐるしく



変化する社会情勢や経済動向の中にあって、なお地に足を付けて歩みを進める稻荷社講員の皆様の、事業の繁栄と業務の安全を滞りなく祈念しました。





例祭齋行

秋とはいえ、まだまだ暑さの残る九月十三日、大神様のご加護とご神恩に感謝する、ひととせに一度の例祭を齋行しました。

昨年十一月にご社殿屋根の銅板葺き替え工事が完了してより、初めてとなる今年の例祭は、島根県の出雲大社より千家和比古権宮司

様、県内神社の宮司様、また西田明男・藤井秀之・岩倉恒夫各責任役員、中嶋光夫高瀬区長他、多くの皆様のご参列のもと、盛大且つ厳肅裡な齋行が叶いました。

祭典では、神社本庁よりの「幣帛」を奉り、神職・巫女、そしてご参列を賜りました皆様が大神様への感謝の真心を捧げ、今後益々の国の隆昌と皇室の安泰を祈りました。

また神賑行事には、今年も井波地域を中心に広く活動する女声コーラスグループ「ソット・ヴォーチェ」の皆様による「越中

一宮高瀬神社奉賛歌」が、ご社殿屋根銅板の葺き替え工事後、初めての例祭の齋行を寿ぎ、澄みわたる秋空の彼方に届くかのごとく、歌声高らかに奉唱されました。



戦後七十九年、 護国の英霊に 想いを寄せて

ご本殿の西側に寄り添うように佇む「功霊殿」は、この砺波地域から戦地に赴かれた英霊と、当地方開拓の功労者あわせて六、四〇〇

余柱をお祀りしており、この日もご本殿に引き続き祭祀を厳修しました。

今年の「井波松風会」の皆様は、国分青屋作「立山を望む」。

どれほど時代が移り変わろうとも、護国の英霊への感謝の心は、決して忘れてはならないのです。

夏越大祓 あわせて茅の輪神事齋行



毎年六月に行われる「夏越の大祓」は、私達が日々の生活を送る中で、気づかぬうちに身についた穢れを祓う大切な年中行事です。

本殿では神職が「祓物」と呼ばれる木綿と麻の二枚の布をそれぞれ八つに引き

裂き、祓いの儀式を厳修、その後ご参列の皆様は茅の輪をくぐり、残り半年の健康と平穏な毎日を祈りました。



風宮例祭齋行

荒き風の鎮静を祈って

二十四節氣のひとつである夏至を間近にひかえた六月十九日、農作物の無事の生育を祈念する、高瀬神社の末社 風宮の例祭を齋行しました。

江戸期には加賀藩の穀倉地帯として栄えたこの砺波平野、古来その地理的特徴から風水害も多く、先人の切なる祈りは今も大切に受け継がれています。



祝祭日には国旗を掲げましょう

八乙女山風神堂 例祭 並びに 鳥居建替え奉告祭

八乙女山風神堂は、季節の変わり目に吹き荒れる「井波風」の鎮めとして建立。以来、この井波地域を風害から守る守護神として崇敬されています。当初、7月2日を予定していたこの祭事、長雨による登山道の土砂崩れにより齋行日を7月23日に延期の上、祭場を閑乗寺公園展望施設に移してのご奉仕となりました。井波の里々に、風神様のご加護がありますように一。



祝詞では今般建替えられる石製の鳥居についても奉告

七夕祭 並びに 技芸上達祈願祭

夏空に天の川輝けー。

日本の新しい習慣として全国的に取り組みの始まっている「夏詣」で賑わう七月七日、この日七夕祭に併せて、見事な機織りの技術をもつ織姫の才にあやかり、手習い事の上達を祈る「技芸上達祈願祭」を齋行しました。

ご参拝の皆様が掲げたたくさんのお願いごとの短冊や、すでに高瀬神社の夏の風物詩として定着した五五〇個を超える風鈴の音色は、大切な季節の祭事に彩りを添えました。



社会に学ぶ 「14歳の挑戦」

中学二年生、初めてのご奉仕。
七月二日から五日にかけて、地元、南砺市立福野中学校二年生の生徒さん三名は、職場体験学習の一環として、慣れない神社のお務めに挑戦してくれました。期間中は、巫女さんから舞を習ったり、竹ぼうきを手にしたりと、厳しい暑さの中、元気にご奉仕に励みました。



自分達で書いた看板の前で



人形感謝祭齋行

大切な思い出に心をよせて

親友との別れを惜しむかような雨の一日となった七月十四日、大切な時を共に過ごした人形たちに感謝の気持ちを伝え、清めの後にお焚き上げをする「人形感謝祭」を齋行しました。

当日は、永く愛されたひな人形や日本人形、ぬいぐるみなど多くの人形が丁寧に置き飾られ、祭典にご参列の皆様は、ご代表の方が供えた玉串に心を寄せて、懐かしい思い出の詰まった人形たちに別れを告げました。

「人形感謝祭」は、毎年七月に齋行しています。



 中林 雅代	 笹波 美恵		 松本 昌子	 安達 陽子	
 中嶋外志男	 南部 祥雲		 飛騨山静恵	 川原 るみ	
<p>開催期間 七月十三日～十五日</p> <p>会場 高瀬神社参集殿</p> <p>総合監修 梅崎親美</p> <p>写真 荒井恒雄</p> <p>制作 一宮 高瀬神社</p>			<p>第二十四回</p> <h2>人形展</h2> <p>いちごいちえ</p> <p>一期一会</p>		<p>県内外で幅広く活躍する人形作家と、草月流富山県支部 秀抱会とが織りなす、創作人形といけばなの展覧会が、本年も華やかに開催されました。</p> <p>期間中、多くの皆様にご来場いただき、盛況のうちに無事、会期を終えることが出来ました。</p>
 谷口 和美	 あはたいと		 笹川むもん	 千代拍	
 中杉 直美	 藤田 清枝	 中山朱津子	 床 サユリ		



責任役員交代のご挨拶

本年六月、地域の代表として永く責任役員をお務めいただいた石岡敬夫様のご勇退、七月よりは岩倉恒夫様にその後をお受けいただきました。

就任のご挨拶



責任役員
岩倉恒夫

五月のある日、地域役員の方より高瀬神社の責任役員に推挙いただいたお話がありました。当初は「なぜ私のような者に」と少し戸惑い、その度に辞退の旨をお伝えしておりましたが、足をお運び下さる方々のご労苦に、いつまでもお断りする事も失礼と考え、この程、高瀬神社責任役員をお引き受けることと致しました。

教育者でもなく、また経営者としての経験もない、元より浅学非才な身ではありますが、この高瀬地域の代表として、大神様のお側近くにて神社運営の一端を担わせていただくことを有難く思い、地域皆様方のご指導とご協力をいただきながら、私に出来ることを精一杯務めさせていただく所存でございます。地域の皆様、また神社職員の皆様、今後とも何卒宜しくお願ひ申し上げます。

退任のご挨拶



前責任役員
石岡敬夫

令和六年六月三十日を以て、高瀬神社の責任役員を退任させていただきました。

平成二十五年七月一日の就任以来、十年になりました。その間、春夏秋冬、四季折々に催される祭礼・諸行事を通じ、ともすれば忘れがちになっていた大切なことを、改めて学ばせていただきました。

「人間社会では、与えられた任務に失敗した場合には責任を取られることがあります。しかし、神様の世界では、人々に責任を取らせることはないので、任されたことに真心を込めて誠実に努めればそれでよいのです」との宮司様の教えを支えに今日まで来ました。

在任期間には数多くのかけがえない体験をさせていただきましたこと、大神様、地域の皆様、また神社職員の皆様に心より御礼を申し上げます。

ありがとうございます。

ご祈祷のご案内

高瀬神社のご祭神は福の神、縁結びの神、医薬医療の神として全国より広く崇敬を集める大国主大神(大国さま)です。当神社では、交通安全(車のお祝い)・家内安全・良縁成就(縁結び)・心身健全・厄除け・病気平癒他のご祈祷を、心を込めて毎日ご奉仕しています。お気軽に社務所までお問い合わせ下さい。

ご祈祷料 1件につき5,000円より
高瀬神社社務所 0763 (82) 0932

献穀田だより



神職が「献穀田」を献う

除熱祭齋行

七月二十一日、農作物が夏の暑さの被害を受けず、力強く育つよう祈念する「除熱祭」を斎行しました。

祭典後、神職が「献穀田」に赴き、大前にて稲の順調な生育を祈願した御幣串を刺し立て、健やかに育つ青い稲穂を祝いました。

熱送り太鼓巡行

また、その日の夕刻には、田畑への災いを打ち払うかのごとく、氏子の練り回しによる「熱送り太鼓」の勇壮な打音が里々に響き渡りました。

そして、五穀豊穣、害虫の退散を祈念しながら氏子の手により御幣串が刺し立てられ、田畑にひそむ災いを隈なく追い遣りました。



- 1 本年の熱送り太鼓奉仕者
- 2 揃いの半纏をまとって巡行前に献いを受ける
- 3 二十四節氣「大暑」前日の猛暑の中の巡行



ご奉納御礼

【ブロンズ彫刻レリーフ】

【朝顔鉢植え】

砺波市遺族会 会長 山本 甚克殿
南砺あさがお会 伊東 浩殿
向井 清明殿

以上の皆様よりご奉納を賜りました。厚く御礼申し上げます。



大輪あさがお展 開催

真夏のオアシスにようこそ

一年でいちばん暑い高瀬神社の境内に、今年も笑顔と元気をくれる愛らしい朝顔が勢ぞろいしました。



八月九日から十二日にかけて開催された「大輪あさがお展」、主催する南砺あさがお会（森田光正会長）会員の皆様の丁寧で心のこもったご案内や説明に、朝顔の花にスマートフォンやスマートフォンのレンズを向けるご来場の皆様も、思わず真剣なまなざしで聞き入るほどの、楽しいひとときを過ごされていただきました。



能登半島地震で被災された皆様に心からお見舞い申し上げ、一日も早い復興をお祈りいたします



連載

鎮守の杜 のすたるじい 第5回

幼き日の記憶と共に

熱送り太鼓奉仕者 中田 武

デンデ デン、デンデ デン、デンデデン、梅雨末期の土用の入りから三日目の夕刻、砺波地方の各地で勇壮な太鼓の音が鳴り響きます。田園地帯での稲の熱病（イモチ病）の退散と豊作を願う農民の思いを込めた「熱送り太鼓」の音です。ザーザーと降る雨の音、そして稲光りと雷鳴を表わして打ち鳴らします。

幼い頃、近所での太鼓の練習を見に行ったのが熱送り太鼓との出会いでした。自分より一回りほど上の方の太鼓の演奏に子供ながら心踊らされ、その光景は今も脳裏から離れることがあります。

私が青友会（地元青年団）に所属していた頃の



平成二十六年の奉仕者、いちばん左が中田さん

或る日、太鼓の練習に出るようお達しがあり、幼ない頃を思い出しながら練習場所の高瀬神社へ出向きました。そこには今は亡き先輩方が太鼓を叩いてお

られ、ここで昔日に聴き及んだ音色に再会しました。

以来、太鼓の行事がある度に奉仕メンバーに加わっています。

今年も夏土用入りの初日、村委員の手で拝殿の天井に吊るしてある太鼓を下ろすと、緩めてあった綱を締め直し、熱送り太鼓の練習が始まりました。練習とは言え社の杜に木霊する太鼓の音に身が引き締り、敵かな気持ちになります。

二日間の練習を終え、除熱祭の日の夕刻には奉仕者一同が笹竹に飾られた太鼓の前に整列、神職による御祓いの後、叩き初めをして地域の水田へ向います。町内会長が田の水口に御幣を立てて拝礼をすると、無病無災害、そして豊年の祈りを込めて太鼓の袍を振り下ろします。

村方の皆様と共に高瀬三町内十二箇所（二箇所の巡行を終えると、後に残る筋肉痛を気にしながら）今年も無事に熱送り太鼓の奉仕に参加出来ました。高瀬の大神様の御神徳と御加護に感謝し、毎年安堵感に浸っています。



平成三十年の巡行 出発前の中田さん（今年）

このコラムでは、氏子崇敬者の皆様よりお寄せいただいた、高瀬神社にまつわるとっておきの思い出を紹介いたします。





大国さまの処方せん ⑭

「いい歯で健康、いきいき長生き」

山本武夫歯科医院
院長 山本 武夫

自分自身が高齢者になってみて、元気で過ごせる、何でも美味しく食べられる、これは皆、自分の周りの人に支えられたお陰であると思います。

末娘が剣道をしていて、高瀬神社の境内で、日本でも珍しい野外剣道大会が開催され、何度も出場し、私自身も応援に参加していました。開会式で、来賓の方から選手への激励に必ず「親」という字は、木にたつて見守るのが親です。皆さんの事は、高瀬神社の大杉が、御先祖様の時代から、ずっと見守って下さっておられるのです」といってお言葉がかけられます。私達は、小さい時は自分で歯と口腔の健康づくりはできません。皆、親御さんのお力添えがあって、初めていい状態で成長していきけるのです。

今、この親御さんたちの特に小さいうちからのむし歯予防を社会全体で支える仕組みが、この砺波地方では確立しています。乳幼児からの健診と乳歯のむし歯予防のためのフッ化物歯面塗布、保育園・こども園から小中学校までの永久歯のむし歯予防のためのフッ化物洗口、こうした切れ目のない対策が実を結んで、この地方では本当に子どもたちのむし歯が無くなっています。

一方で、人間は、高齢者になっていくと、段々と体の力が衰え、次第に人の御世話にならなくてはいけなくなっています。「歳とると赤ちゃんに帰っていい」と言われますが、社会全体で支えなければなりません。病気になるって面倒を見るというのではな

くて、如何に予防で、健康で長生きできるようにするか、なのです。そのためには、青年層・成年層からの国民総歯科健診が重要なのです。少なくとも、現在南砺市で行われている、四十歳から八十歳まで、五歳ごとの節目健診(口腔健診)を受診してください。

山本 武夫

山本武夫歯科医院 院長

新潟大学歯学部卒業、現在NPO法人日本フッ化物物むし歯予防協会専務理事
県立となみ総合支援学校の障がい児のフッ化物歯面塗布などを永年実施、令和五年学校保健功勞により瑞宝双光章受章。
「フッ化物によるむし歯予防」をライフワークにご活躍されています。

医薬医療の神として知られる大国主大神(大国さま)のご神徳にちなんだこのコラムは、毎回、専門家の方にご寄稿いただき、読者の皆様の生活に役立つ医療知識などを発信いたします。

令和6年	10月	1日・13日・25日
	11月	6日・18日・30日
	12月	12日・24日

令和7年	1月	5日・17日・29日
	2月	10日・22日
	3月	6日・18日・30日

腹帯のお祓いも行いますので、どうぞご持参下さい。

安産祈願 成の日カレンダー



お子様の健やかなご成長を祈って
かわいいお子様の成長を祝い、ご家族おそろいでお参り下さい。

期間 10月1日(火)～11月30日(土)
受付時間 午前9時～午後4時30分まで
ご祈祷料 お1人につき5,000円より

7歳(女兒) 平成30年生まれ
5歳(男児) 令和2年生まれ
3歳(男女) 令和4年生まれ (数え年)

しめなわ 注連縄奉納のご案内

高瀬神社注連縄奉納講では、毎年、新年に向けてご社殿の注連縄のかけ替えを実施しています。真新しい注連縄に祈りを込めて、清々しい新年をお迎え下さい。

- 一口 10,000円
- お申込み期限 令和6年10月31日
- ご奉賛者様のお名前・お願い事を記した紙を注連縄に緋い込み、ご神前に掲げます。
- お申込み・お問合せは社務所まで。

電話 0763 (82) 0932

「一年の計は元旦にあり」。高瀬神社は、福の神として広く崇敬をあつめる大國主大神（大國さま）をお祀りしています。来る新年が輝かしき年、実りの多い一年となりませう、心を込めて「新年初祈禱」をご奉仕いたします。



令和七年 新年初祈禱のご案内



期間 元日より節分の頃迄にご参拝下さい
受付 午前九時から午後四時三〇分迄
 ※元日は午前零時から午後六時頃迄
ご祈禱料 一件につき五〇〇〇円より

◎特設祈禱受付入口よりお進み下さい。

社報バックナンバーのご案内

当社社のホームページにてバックナンバーをご覧いただけます。祭典の由緒や行事の沿革など、過去の記事もご参考になさってください。
<https://www.takase.or.jp>

令和七年 初詣献灯のご案内

高瀬神社では、初詣期間の正参道を飾る提灯の奉納をご案内しています。大神様の更なるご加護と、来たる新年が尚一層輝かしい一年となりますよう祈りを捧げ、奉納願います。

- 一、献灯期間 正月七日まで
- 一、献灯料 一基一万円
- 一、申込期限 十一月三十日
- お申込みの方の屋内安全・商売繁盛他の祈願祭をご奉仕致します。
- 詳しくは社務所までお問い合わせ下さい。



交通安全守のご紹介



【交通安全守】頒価 800円
 赤色・青色 / 吸盤付き

秋の全国交通安全運動も終わり、自動車の運転に対する意識を新たにされた方も多いのではないでしょうか。高瀬神社では様々な千代紙で彩られた交通安全守をご用意しております。ひとつとして同じ絵柄のお守はありません。あなただけのお気に入りのお守をお選び下さい。

表紙写真

高瀬神社 献穀田拔穂祭。豊かに稔った稲穂は、早乙女達の手で丁寧にかり取られます。

編集後記

東京都のある街に「名曲喫茶ライオン」という古い喫茶店があると、宮司から教わり訪ねたことがある。クラシックの名盤が静かに回

る、暗い店内に聳え立つ頭上の木製スピーカーからは、声楽の調べが儂げに降り注いでいた。ひと夏の鮮明な記憶である。ただ、アイスコーヒーの味は憶えていない。

(知)

令和7年 厄年・身祝一覧

〈厄年〉数え年

	前 厄	本 厄	後 厄
男	24歳 平成14年(午)	25歳 平成13年(巳)	26歳 平成12年(辰)
	41歳 昭和60年(丑)	42歳 昭和59年(子)	43歳 昭和58年(亥)
	60歳 昭和41年(午)	61歳 昭和40年(巳)	62歳 昭和39年(辰)
女	18歳 平成20年(子)	19歳 平成19年(亥)	20歳 平成18年(戌)
	32歳 平成6年(戌)	33歳 平成5年(酉)	34歳 平成4年(申)
	36歳 平成2年(午)	37歳 昭和64年・平成元年(巳)	38歳 昭和63年(辰)

※数え年とは、満年齢に誕生日前には2歳、誕生日後には1歳を加えた年齢です。
 *…この年を厄とする地域もあります。

〈身祝〉数え年

	年齢	生まれ年
遷曆	61歳	昭和40年(巳)
古希	70歳	昭和31年(申)
喜寿	77歳	昭和24年(丑)
傘寿	80歳	昭和21年(戌)
米寿	88歳	昭和13年(寅)
卒寿	90歳	昭和11年(子)
白寿	99歳	昭和2年(卯)

※男女ともに祝います。



新参集殿10周年

これからも新たな夫婦の幸福のために。



発行日 令和六年十月一日

発行所 越中一宮 高瀬神社社務所

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291

TEL0763-8210933
FAX0763-8213304

印刷所 牧印刷株式会社



あなたの人生に、神社がある。越中一宮高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社

検索

